

昭和
41年 8

県民の大

毎月1日発行 第340号

発行所 和歌山市小松原通1丁目1番地

和歌山県知事室広報課

印刷所 和歌山新聞社

山村の問題点

人口が減る。
山村の人口が激しく減少しています。昭和三十五年から昭和四十一年までの五年間に県全体では、一・四%の人口増をみてゐるのに、山村地域では逆に八・一%という減少でした。

なぜ山村に住む人がこんなに減るのでしょうか。都市地域の労働力需要が山村の若い働き手を吸収するからです。

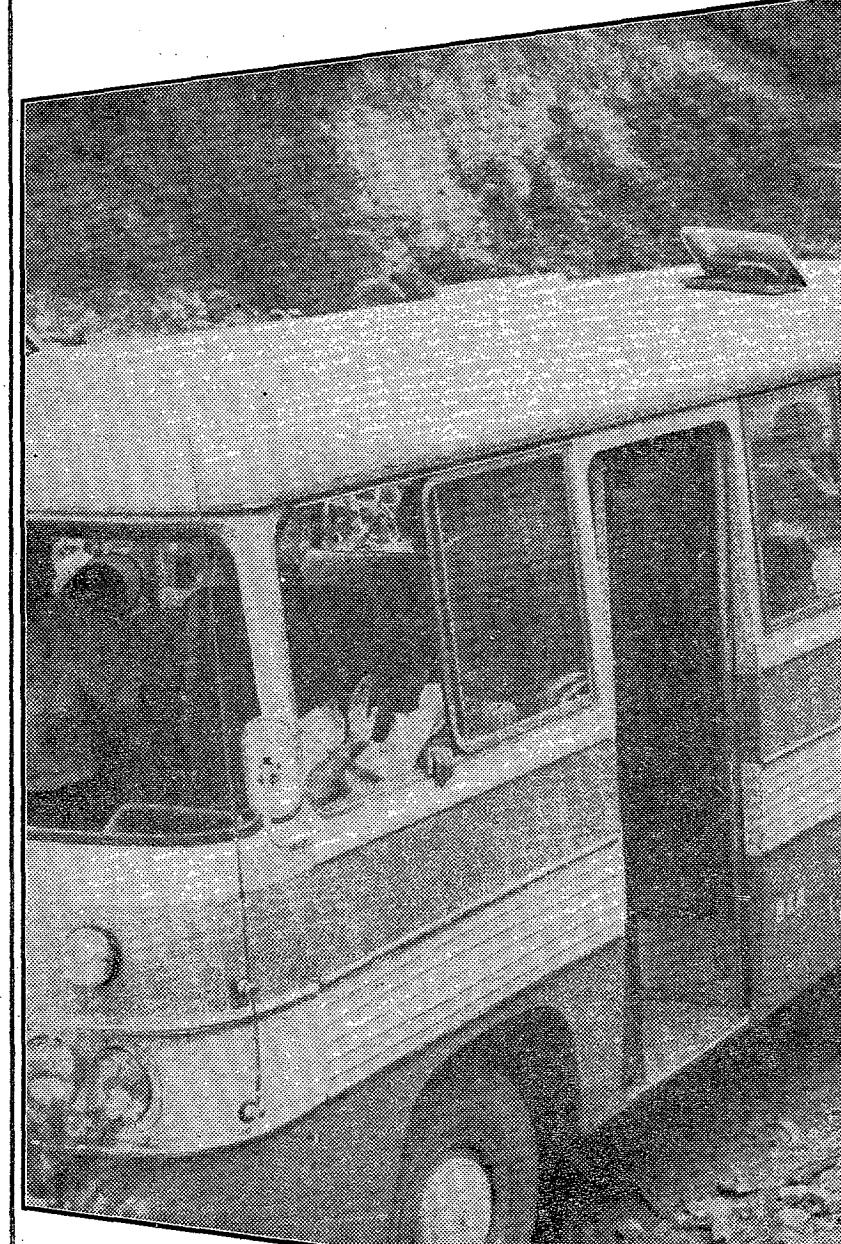
ここに「人口の老年化」という山村がいだく第一の問題点があります。

住みよく豊かな —山村に—

所得が低い
山村では生産の手段をおもに林業に頼っていますが、その景気がはばかりなく、都市部地域との所得差が広がるばかりです。

産業、地域格差をなくすにはどうすればよいか、ここに第二の問題点があります。

県では、このほかのいろいろの問題とともに、早くからこの対策の必要を考え、力を入れてきました。とくに四十一年度では重点施策の一つとして大幅な予算上を行ない、この問題を真剣にとりあげています。



遠い部落から通学する生徒のために町営スクールバスを運行している=伊都郡花園村

ことしは
こんなことを

★奥地の保健婦さんの修学奨金制度、へき地出身医学生の就学貸付制度を新たに設ける——六六万円

★巡回診療を強化——四〇九万円

★上水道設備に助成——七〇万円

★農山村の淡水魚養殖を奨励して、ふれあい会場など——一五九万円

★振興山村特別開発事業など山村振興事業——八五九万円

★山村に電気を入れ未点灯地区をなくすために——四三六万円

★県下五地区的林業構造改善事業に対して——八一七万円

山村振興対策は大きく分けて、
産業の生産性を高める、
住みよい社会機能をつくる、
の二つの言葉で言いあらわせます。この二つが同時に、しかも調和よく計画され、それぞれの施策が最も大きな効果をあげるよう考

えていかねばなりません。

産業の生産性を高めることについては、林業構造改善事業、農業構造改善事業、林道事業、造林事業、養蚕、淡水魚の養殖など山村特有の産業を援助していく方策があげられます。

住みよい社会機能をつくるためには、交通通信、医療、厚生、文教施設など社会環境の整備が必要になります。

こういった考え方にとって現在は山村振興施策を次々ととり入れ、本年度の山村振興関係予算を最も十五億円を超える予算を計上しています。

ではその予算でどういう対策をおこなっているか簡単に説明してみましょう。

総力を
あつめて

一方、この山村対策をもつと強くおこなうために、国に対しても抜本的な政策をたててもうよう、懸命の要望を重ねているのです。

すなわち、地方交付税を特別に増加すること、山村振興事業の補助率アップ、振興事業のところを倍基準をもつてふれあい会場などを大幅に増額するなどがあります。

また、山村町村においても、山村振興協議会あるいは山村振興連盟と組んで、山村振興事業の実現をめざして活動をおこなっています。

このように山村対策がいっそう

強力に進められ、その結果、山村振興のもうひとつの「山村の経済力をそだてる」住民福祉を高めようとも、地域格差をなくすといふ目的的実現が一日早じこと願うものです。

道路を守る運動
8月1日～8月31日
道路を広く使いましょう
商品、自転車、立看板をおかないように
土砂、ごみを捨てないないように
ごみ箱などをおき放しにしないように

道路をきれいにしましょう
紙くずを捨てないように
タバコの吸いがら、ガム、果物の皮など

農村から
交通事故をなくしましょう

夏期特別貯蓄増強運動

全農協

8月

*一日みな貯金実施中

農業協同組合・和歌山県共済農協連

☆スポーツ少年団全国大会に県で
ら三千人が参加。田辺市の藤本
京子さんは、あきがれの大空出
場を前に事故でなくなった弟さ
ー保育所もある。二十人ばかりの
幼稚が無邪気に遊んでいる姿が
見られる。

北から

お母さんが安心して働くよう

です。

自動車運行をみていま

す。

しかし、今までの

見事な開発

が、

田辺南部海岸県立自然公園(奇絶峠)

は、

田辺市

は、

